

令和8年3月2日

## 令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	墨田区立緑幼稚園
所在地	墨田区2-11-5

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

音～豊かな感性や表現力を育む～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

本園の幼児は、楽器やダンスが大好きで、日々の保育の中でも意欲的に取り組んでいる。一方で、踊ることに苦手意識があったり、感じたことや考えたことを素直に表現できなかったりする幼児もいる。

音は、雨や風などの自然から発する音、つくり出す音、歌や楽器など、日常生活で触れる身近なものである。音と関わる中で、聞く、奏でるのみならず、つくる、考える、試すなど、様々な体験を通して、感じたり、気付いたり、考えたりすることで、豊かな感性や表現力を育みたいと考え、本テーマを設定した。

### 2. 活動スケジュール

- |       |  |
|-------|--|
| 5月～   | ・鈴、カスタネット、タンブリン、トライアングルなど、1種類ずつ様々な楽器に出合わせ、楽器遊びの面白さを知る。   |
| 6月上旬  | ・雨の日に、傘をさして園内を散歩。身近に面白い音があることを知る。<br>(事例①)   |
| 6月～9月 | ・一斉活動や日々の遊びや生活の中で、「面白い音探し」を行い、面白い音に気付かせる。面白い音を見つけた幼児を取り上げ、学級で共有し、様々な音に興味をもったり、気付いたりする。(事例②③)<br>・遊びの中で、考えたことを試しながら音になるものをつくる。(事例④) |
| 9月～   | ・2つ、3つと楽器を増やしていき合奏を行い、音が揃う心地よさや、音楽に合わせて鳴らす楽しさを感じる。   |
| 10月中旬 | ・運動会で、パーランクーを使った表現を披露する。   |
| 2月中旬  | ・生活発表会で、4つの楽器で使って合奏をする。友達のを聞きながら、音が揃う心地よさや音が重なる面白さを感じる。  |

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

#### 【素材・道具】

- ・空き箱、カップ、広告紙、ペットボトルキャップ、ペーパー芯、ストローなど
- ・どんぐり、枝などの自然物

#### 【環境】

見つけた音を、写真とともに掲示する。

### 4. 探究活動の実績

#### <活動の内容>

「面白い音を探そう！」

- ・面白い音があることを知る（事例①）
- ・面白い音に気付く（事例②③）
- ・考えたり試したりしながら音が鳴るものをつくる（事例④）

#### <活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

#### **事例① 面白い音があることを知る（一斉活動：雨の日のお散歩）**

雨の日に、学級全員で傘を差して園庭の散歩をする。教師が「なんだか、いろんな音が聞こえるね」と言うと、「雨の音がする！」と数名の幼児が答える。教師が、「どんな音？」と聞くと、「ぼつぼつ」、「ザーザー」など、思い思いに答える。「本当だ！ぼつぼつもザーザーも聞こえるね。面白い」、「他にも面白い音ないかな～」と言い、再び園内を歩く。教師が、「あ、これも面白い音がする！」と、アルミのお盆の上に雨が落ちる音に気付かせる。幼児らは、教師の近くに集まり、「ほんとだ！面白い」、「ピチャン！って音がする」などと言い面白がる姿が見られる。

### **事例② 面白い音に気付く（遊びの中での青虫との関わり）**

学級で飼っている青虫をかわいがっているA児。ままごの時も、虫かごに入っている青虫を傍に置きながら遊んでいる。

ある時、A児が「ん？何の音？」と教師や近くにいる友達に聞く。何の音かすぐに分からなかったため、みんなで耳を澄ましてみる。教師が、「この虫かごから音がしない？」と言うと、幼児らは、虫かごに耳を近づける。するとA児が、「あ、青虫が葉っぱを食べている音だ！」と気付く。他の幼児も、「本当だ！」、「バリバリって音がする！」と驚く。

片付けの後、青虫が葉っぱを食べている音がしたことを学級で取り上げた。その時は、青虫が葉っぱを食べている音が聞けなかった。しかし、他の遊びの時間や、朝登園した際に、青虫が葉っぱを食べている音を聞こうと観察する幼児が増えた。

### **事例③ 面白い音に気付く（プール遊びの場面）**

学級みんなでプール遊びを行う。教師が、フラフープに透明のビニール袋を張った的を用意しておく、B児がその的に向かって水鉄砲で水をかけて遊ぶ。すると、「面白い音がする！」と言い、繰り返しの的に向かって水鉄砲で水をかけて遊ぶ。

降園前の時間に、プールで見つけた音をB児が学級のみんなに紹介する。すると、「雨の音と似ていたね」「ザーザーって音がした」など、気付いたことを言う姿が見られた。

### **事例④ 考えたり試したりしながら音が鳴るものをつくる（遊びの中で）**

C児が、製作コーナーでカップを取り、中にペットボトルキャップを入れ、同じ形のカップでふたをする。C児が「先生見て。音がするよ」と言い、カップを振って音を鳴らしてみせる。教師が「ほんとだ。いい音だね。何が入っているの？」と聞くと、「ペットボトルのふただよ。」と言う。その日の降園前の集まりの時間に、C児が学級のみんなに紹介する。

翌日、D児がC児と同じつくり方で、「先生、ぼくもCちゃんみたいにつくったよ」と言って音を鳴らしてみせる。教師が「あれ、昨日のCちゃんと少し音が違うね。」と言うと、「僕はね、中にストローを入れたんだよ」と言う。また、他の幼児も空き箱にストローを入れたり、空き箱を太鼓のように叩いたりして、音が鳴るものをつくる姿が見られる。

<活動の様子>



事例①雨の日のお散歩



事例②青虫が葉っぱを食べている音、聞けるかな？！



みんなで見つけた面白い音を写真と共に掲示

5. 振り返り

<振り返りによって得た教師の気づき>

- 一斉活動で雨の日のお散歩で、「面白い音探し」を行ったことがきっかけとなり、身近に様々な音があることを知り、遊びや生活の中で、音に興味をもつようになった。
- 様々な音に触れたことで、これまでは聞き流していたであろう音に興味をもち、面白がったり、「何の音だろう？」と疑問をもったりするようになった。
- 学級で様々な音を共有したことで、感じたことや気付いたことを言葉で伝えたり、考えたことを試したりするなど、様々な形で表現しようとする幼児が増えた。

以上